

保健室だより

平成 23 年 9 月発行
大正大学保健室

結核は過去の病気ではありません。今でも年間 2 万 5,000 人以上の新しい患者さんが発生し、年間で 2,000 人以上の人が命を落としている日本の重大な感染症なのです。厚生労働省では、毎年 9 月 24 日～30 日を「結核予防週間」と定めて、結核に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。

今月は『結核』について特集します。結核を正しく知ることが、予防の第一歩です。正しい知識を身に付けましょう！

●結核はどんな病気？

結核とは、結核菌という細菌がからだの中に入ることによって起こる病気です。結核菌が肺の内部で増えて、肺が腫れてしまいます。続いて肺が壊れていき、呼吸する力が低下します（肺結核）。

肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳などからだのあらゆる部分に影響が及ぶことがあります（肺外結核）。

●こんなときは病院へ

結核の初期症状は風邪と似ています。次のような症状が長く続くようなら、必ず診察を受けましょう。



- ☑ 咳（せき）が 2 週間以上続く
- ☑ 痰（たん）がでる（痰に血が混ざる）
- ☑ からだがだるい
- ☑ 微熱が続く

●結核ってどうやってうつるの？

結核は空気感染する病気です。結核菌の混ざった痰（たん）が咳（せき）やくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによってうつります。これを「空気感染」といいます。

結核菌を吸い込んでも、大部分のものは、気管支などに引っかかり、体外に運び出されてしまいます。しかし、肺の奥まで結核

菌が達してしまうと、菌が発育しはじめます。この状態を結核にうつった（感染）といいます。ただし、「感染した」だけの状態なら、周囲の人に感染させる心配はありません。

●感染したら、必ず発病するの？

結核に感染したからといって、全ての人が発病するとは限りません。結核に感染しても、健康で体力があれば、通常は免疫機能が働いて結核菌の増殖を抑えます。ところが、栄養状態が悪かったり加齢とともに体力が衰えてきたりすると、結核菌に免疫が負けて「発病」することがあります。

若い世代の多くは結核菌に未感染のため、菌を吸い込むと感染しやすく、比較的早い時期に発病する傾向がみられます。

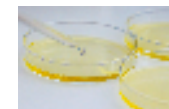


●結核の予防法

- 規則正しい生活を心がける
- バランスのとれた食事・適度な運動・睡眠時間を十分にとる
- 人ごみの多い所へ出かけたら、うがい・手洗いを忘れずに！
- 毎年、全学健康診断を積極的に受ける

●結核の検査

- ① 結核の感染を調べる検査：ツベルクリン反応検査、クワンティフェロン®TB-2G（QFT）検査
- ② 結核の発病を調べる検査：胸部 X 線検査
- ③ 結核菌の質を調べる検査：喀痰検査



●結核の治療

もしも、発病したとしても、「排菌」（咳や痰とともに結核菌が空気中に吐き出されること）していない場合は、他の人に感染させる心配はありませんので入院しなくても通院で治療ができます。

治療の基本は服薬です。咳が治まったからといって治療の途中で薬をやめてしまうと、菌は薬への耐性を増し、薬の効かない「多剤耐性菌」になることがあります。必ず医師の指示を守って、治療終了まできちんと薬を飲み続けることが最も重要です。

出典：公益財団法人結核予防会（JATA）HP